

くりーんプラザ・龍 焼却処理施設

可燃物プラットフォーム

可燃ごみを搬入する場所です。緑色の扉は、ごみピットにつながっていて、車が近づくと自動で開きます。入口と出口にはエアカーテンが付いていて、臭気を外部に出さないようにしています。



焼却炉 (90t/日×2炉)

ごみは 850~950 度の高温で、24 時間連続で燃やし続けています。給じん装置により所定量のごみが炉内へ送られ、火格子(ストーカ)の往復運動と火格子下部からの空気により完全燃焼させます。



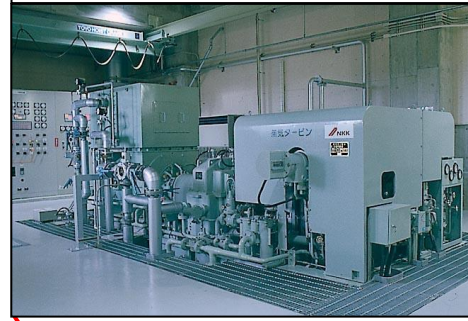
廃熱ボイラ

ごみの焼却に伴って排出される排ガスの熱を利用して、蒸気を発生させる装置です。発生した蒸気は施設内で有効利用しています。



余熱利用設備 (発電 1,500kW)

廃熱ボイラで発生させた蒸気は、発電、給湯、冷暖房などで利用しています。施設で使用する電力の半分以上を、蒸気タービン発電機による発電でまかっています。



減温塔

水を噴霧して排ガスの温度を下げるための装置です。



集じん装置

バグフィルターを用いて、ごみ焼却炉の排ガスからは焼却飛灰(ばいじん)を、灰溶融炉の排ガスからは溶融飛灰(ダスト)を除去しています。

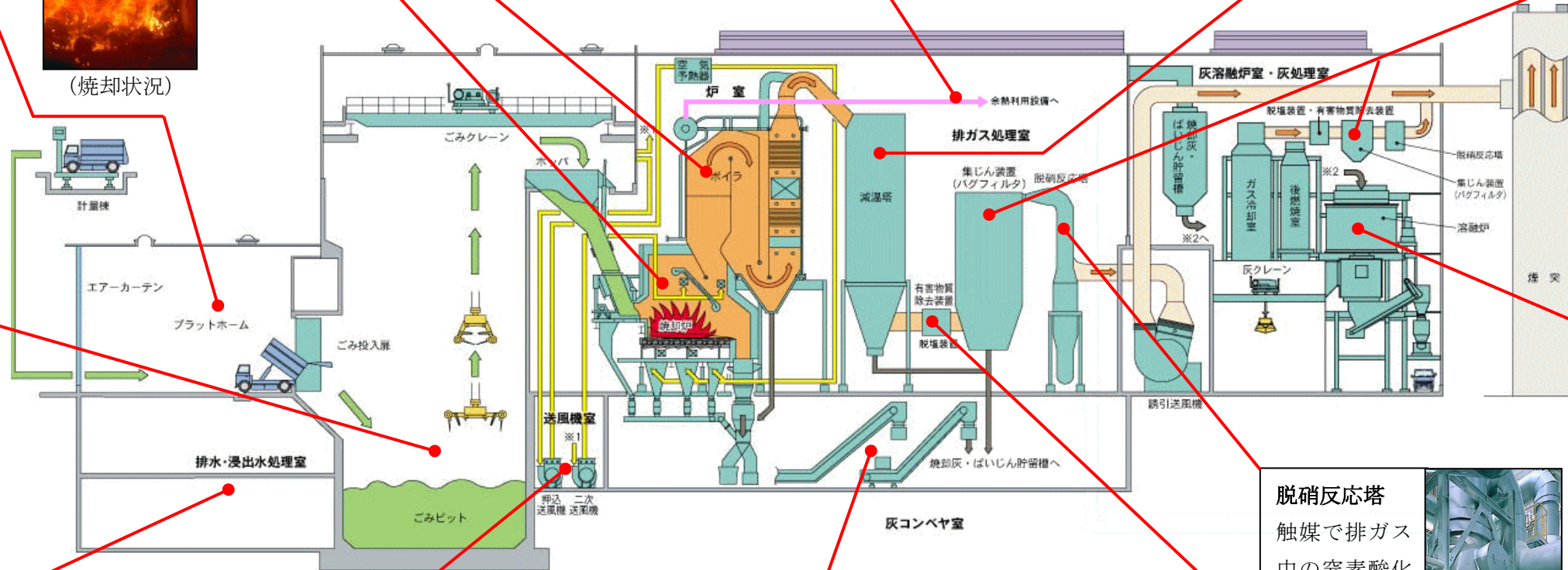


ごみピット

可燃ごみを一時貯留し、ごみ質が均一になるようにクレーンで攪拌してから焼却炉に投入しています。ピット内の空気は燃焼用空気として吸引し、臭気が漏れないよう負圧に保たれています。



(焼却状況)



(溶融状況)



(バグフィルター)



灰溶融炉 (12t/日×2炉)

ごみの焼却灰と焼却飛灰(ばいじん)を 1,300 度の高温で溶かしてガラス状の溶融スラグにし、無害化・減容化します。溶融スラグは最終処分場で覆土材として有効利用しています。



(溶融スラグ)



(ダスト固化物)

水処理設備

工場から出た排水(プラント排水)、最終処分場に降った雨(浸出水)、パッカー車の洗車排水などは、水処理設備で綺麗にしてから施設内で再利用しています。



通風設備

ごみを燃焼するために必要な空気を供給する押込送風機や、排ガスを吸引して炉内を負圧に保つための誘引送風機等、焼却炉廻りの通風に関わる設備です。



灰出し設備

焼却灰を灰溶融設備まで搬送するための設備です。コンベヤの他、溶融不適物を除去するための振動篩、磁選機等により構成されています。



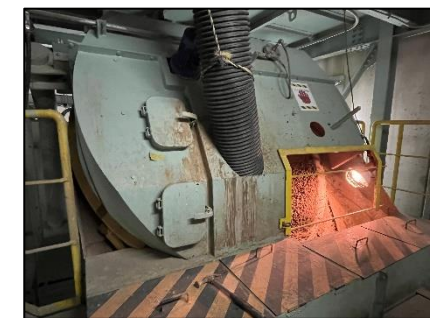
脱塩装置

高反応消石灰を噴射し、排ガス中の塩化水素(HCL)と硫酸化物(SOx)を除去しています。
有害物質除去装置
活性炭を噴射し、排ガス中のダイオキシン類を除去しています。



脱硝反応塔

触媒で排ガス中の窒素酸化物(NOx)を除去しています。



灰固化設備

溶融飛灰(ダスト)に、キレート材とセメントと水を添加して混ぜ、重金属が溶出しにくい状態のダスト固化物を成形します。最終処分場に埋立処分しています。